

節税レポート



平成 22年 2月号

発行日 2010.2.1

今月のテーマ

誰でもできる資金の流れの把握

(株)サンプル
貸借対照表

単位万円

	前期末	当期末	増減		前期末	当期末	増減
現金預金	700	900	200	買掛金	800	900	100
売上債権	1,100	1,200	100	短期借入金	300	250	-50
たな卸資産	860	700	-160	未払金他	20	20	0
前払費用他	10	10	0	未払法人税	50	60	10
固定資産	700	750	50	長期借入金	800	790	-10
				資本金	1,000	1,000	0
				利益剰余金	400	540	140
	3,370	3,560	190		3,370	3,560	190

これは貸借対照表ですが、気楽に考えましょう。借方、貸方などと呼ばないで、左側、右側とよびます。2期の貸借対照表を並べると、資金の流れが把握できます。

現金預金が増えた理由は？現金預金が減った原因は？

I 貸借対照表の右側は資金(現金預金)の源泉です。したがって、右側が増加すると資金が増えます。

1 借入金

右側に借入金がありますね。借入金が増えると、資金が増えます。これは当たりまえですね。

2 買掛金

仕入代金を現金預金で支払えば、現金預金は減るのですが、掛けで買うことで現金預金の流出を遅らせるのです。

仕入先からお金を借りているのと同じです。したがって買掛金が増えるということは、資金が増えることになります。

3 資本金

資本金についても、増資することにより資金は増えます。資金を増やすために増資するのです。

- II 貸借対照表の左側は、右側で集めた資金の使い途を表しています。したがって左側が増えることは資金の使用が増加したことをあらわします。(除く現金預金)つまり資金が減ることを意味します。

1 売上債権(売掛金、受取手形)

売上代金を現金預金で回収すれば、資金が増えるのですが、売上債権が増えるということは、未回収分が増えるということで、資金が寝るのです。逆に売上債権が減少するということは、売上債権を回収し資金化したということになります。つまり資金が増えるのです。

- 2 たな卸資産、前払費用他、固定資産についても、売上債権と同じです。これらが増えることは資金が減る。これらが減ることは資金が増えることになります。

3 減価償却費

固定資産については、もう1つ考えなければなりません。固定資産は減価します。耐用年数に基づいて、毎年減価償却します。この減価償却額も資金の増として計算します。

これについてももう少しお話します。
損益計算書では

売上高	1,000 万円
諸経費	-820
減価償却費	-40
利益	140

となります。減価償却費は、資金の流出のない経費です。
資金的には利益 140 + 減価償却費 40 = 180万円資金
増となるのです。

以上を頭において、サンプル社が現金預金 200万円増加した原因を追っ
てみましょう。

III 資金増加の原因

1	当期利益 140で資金が増えます。 (利益剰余金 140 増えています)	140
2	買掛金の増加	100
3	未払法人税の増加	10
4	たな卸資産の減少	160
	資金の増加額	<u>410</u> A

IV 資金減少の原因

1	売上債権の増加	100
2	固定資産の増加	50
3	短期借入金の返済	50
4	長期借入金の返済	10
	資金の減少額	<u>210</u> B

資金の増加額	410	A
資金の減少額	210	B
差引き資金の増加額 (A-B)	<u>200</u>	

となります。

貸借対照表の現金預金が 200万円増えていますね。

このように貸借対照表を2期並べて比較すると、資金が幾ら増えて(減って)、その増えた(減った)原因が見えてくるのです。

勘定科目が沢山あり大変だと言う社長さん、金額の大きな科目だけでも比較してください。ご自分でボールペンを持って、上の表を作ると見方が分かるようになります。

売上債権、たな卸資産、固定資産が増えると、資産が増えて良いことのように見えますが、必ずしもそうではありません。

それだけ資金が寝るのです。

だから、在庫を減らさない。債権の回収を急ぎなさいとなるのです。

難しいことはありません。初めは多少とまどうかもしれませんが、でもすぐに理解できるようになります。